

AMDA ジャーナル ダイジェスト

発行：2016 年 12 月 No.47 定価 150 円
 発行元：〒700-0013 岡山市北区伊福町 3-31-1
 認定特定非営利活動法人 アムダ：AMDA
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
 E-mail:member@amda.or.jp
 編集：AMDA ボランティアセンター
 ホームページ：http://www.amda.or.jp

ハイチ・ハリケーン被災者に対する緊急医療支援活動

現地時間 10 月 4 日、大型ハリケーン「マシュー」がハイチに上陸し、最大風速約 65m/秒を記録しました。死者 546 人、行方不明 158 人、避難者は 175,509 人 (WHO10 月 28 日発表)。ハイチは 2010 年 1 月に死者 22 万人を超す大地震に見舞われており、復興途上の中でさらなるダメージを負いました。

AMDA は、ハイチ支部とともに緊急医療支援活動の実施を決定。NPO 法人 TMAT との合同チームとして 10 月 8 日に第 1 次、14 日に第 2 次チームを派遣しました。

被害の大きかったハイチ西部ジェレミー市での WHO 調整会議に出席し、AMDA チームはさらに西に離れたモロン市のモロン病院を担当することになりました。

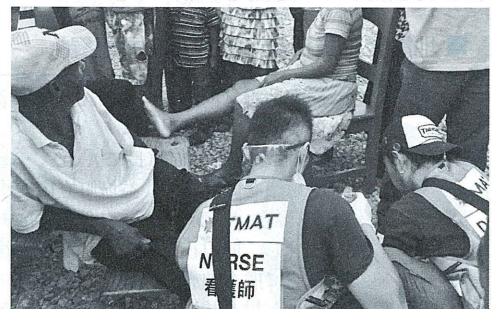
モロン病院は、コレラ患者が増え続けており、感染対策も十分に取られていない状況でした。そこで AMDA チームは診療に加えコレラ感染予防教育を行い、また自発的に病院を清掃していた地元の方ら 6 人を雇用し、衛生面の改善を目指しました。

被災地では日常的に食糧不足の傾向があり、栄養不足によりコレラに対する抵抗力が弱いため、1 日 70～80 人分の野菜スープをつくり患者や家族に配布しました。皆さま、とても喜んで召し上がりました。

AMDA メンバーは 27 日までに全員帰国。その後もハイチ支部メンバーが中心となり、モロン病院からレメア市の病院に移送された方々への食糧援助をはじめ、マフラン市で新たに立ち上がる CTC (コレラ治療センター) にて衛生面での支援を行っています。AMDA 本部は今後もハイチ支部と連絡を取りながら、状況を注視していきます。



被害を受けた町の様子



手当をする TMAT 医師ら

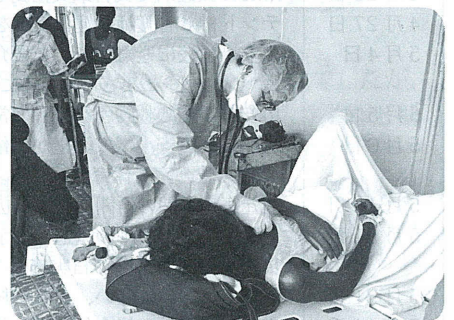
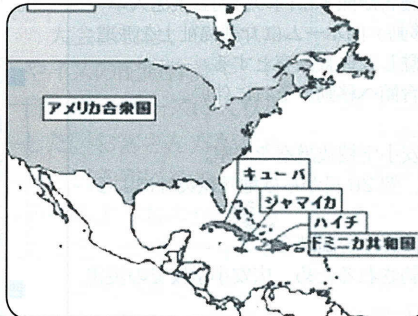
【これまでの派遣者数】

第一次派遣 / TMAT 合同チーム 医師 1 人、看護師 1 人、調整員 1 人

第二次派遣 医師 1 人、看護師 1 人、調整員 1 人

AMDA ハイチ支部 医師 2 人、看護師 2 人

ハイチ現地雇用 清掃員 6 人、調理員 1 人



避難者に対し診療する
佐藤医師

AMDA からの派遣

松永健太郎：調整員 / AMDA 本部職員

(第一次派遣 10/8～10/27)

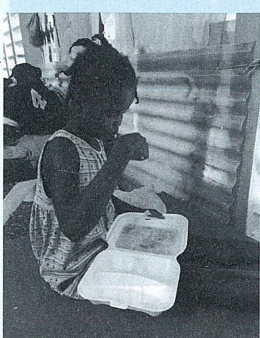
佐藤拓史：医師 (第二次派遣 10/14～10/27)

押谷晴美：看護師 (第二次派遣 10/14～10/22)

森田佳奈子：調整員 (第二次派遣 10/14～10/22)

第一次派遣 松永調整員の声

10 月 8 日 AMDA, TMAT 合同チームで現地入り。9 日、被害の大きかった西部のジェレミーへ。西へ向かうにつれ、被害が大きくなっているのがわかる。



AMDA の行った食糧支援

途中の山道で避難所に立ち寄ると、怪我をして、その後何の処置もしていない人を数名見かけた。周りに医療機関はなく、この辺りで生

活している人たちは小さな病気、怪我が死につながるのではないかと考えた。

第 2 次派遣チーム到着後、AMDA はジェレミーよりさらに十数キロ西のモロン市の病院で活動することになった。

そこで CTC (コレラ治療センター) の立ち上げと感染予防、食事支援により栄養状態の改善に努めた。日に日に、コレラに感染した患者さんは増えていったが、AMDA スタッフ、病院スタッフなどサポートする側が感染することはなかったのは、みんなで予防に取り組んだ結果だろう。ハイチは元々衛生環境が悪く、現地の人たちの感染予防に対する意識を上げるの

は難しかったがみんな徐々に対応してくれた。

言葉の壁や文化の違いに苦労したが AMDA ハイチスタッフと協力し、最終的にはコミュニケーションを上手くとれた。多くの苦労はあったが AMDA の活動、特に診療に加えて、感染予防・栄養状態の改善なども行ったことが評価され WHO、保健省と活動団体との調整会議でも良いモデルケースとして取り上げられていたことは誇らしかった。



熊本地震支援活動

熊本県に大きな被害をもたらした熊本地震から約 8 カ月。震災のつめ跡が今も残る中で、病院やスーパーが次々とオープンするなど住民らは自らの力で立ち上がろうと一歩一歩歩みを進めようとしています。

AMDA は 4 月 14 日の前震発生直後から益城町広安小学校で救護所を開設し支援活動を行ってきました。益城町の避難所が総合体育館に集約された後も熊本在住鍼灸師による災害鍼灸活動を週 1 回実施。総合体育館が 10 月末に閉鎖され、同町内の避難所はすべて閉所になりました。これに伴い、AMDA が継続して行っていた災害鍼灸活動も 10 月 30 日、終了しました。

熊本地震発生以降の地震回数は 4,212 回（10 月 30 日時点）。そのたびに住民は不安に襲われました。AMDA 熊本鍼灸チームリーダーの吉井治先生は「地震回数に比例するくらい避難者の方々に針治療を提供することを目指した」と避難所閉鎖に当たり、活動を振り返りました。

AMDA はこれまで医師や看護師、介護福祉士、理学療法士、調整員らをメンバーとする支援チームを計 31 回派遣し、延べ 2,909 人の被災者の方の治療にあたりました。AMDA はこれからも益城町の復興に向けて、地元の方と協議しながら今後の支援策を探していく所存です。

支援活動を支えてくださったすべての方に心から感謝を申し上げます。引き続き熊本への応援をお願いします。

■ 地震発生当日からの主な活動記録

4 月 14 日	熊本地震（前震）発生。AMDA 難波妙調整員（熊本県益城町出身）が現地向けて出発。
4 月 15 日	12 時 益城町西村町長に AMDA・総社市合同支援チームの受け入れの承諾をいただく。益城町立広安小学校の保健室に AMDA 救護所を開設。AMDA・総社市合同支援チーム（第一次）が総社市役所を出発し、同日夜に到着。医師到着後、広安小学校で回診を開始。
4 月 16 日	未明に熊本地震（本震）が発生。
4 月 24 日	テント村（益城町総合運動公園）が開村。
4 月 25 日	AMDA 救護所で災害鍼灸活動を開始。
4 月 27 日	テント村に看護師が健康相談を受ける AMDA 救護室を開室。
5 月 4 日	広安小学校に避難していた要介護者が熊本市内の特別養護老人ホーム「シルバーピアさくら樹」に移動。同ホームに介護福祉士を派遣。
5 月 5 日	広安小学校の救護所を医師の常駐しない救護室とする。
5 月 6 日	避難者が広安小学校教室から体育館へ移動。それに伴い、AMDA 救護室も体育館へ移動。
5 月 14 日	地元医療機関の再開を受け、広安小学校救護室を閉室。
5 月 25 日	他県からの鍼灸師の派遣を終了、翌 26 日からは地元鍼灸師による災害鍼灸活動を週 3 日実施。
5 月 31 日	テント村閉鎖に伴い、テント村救護室を閉鎖。
8 月 11 日	避難者は益城町総合体育館に集約されるため、広安小学校での災害鍼灸活動を終了。
9 月 4 日	益城町総合体育館で週 1 回災害鍼灸活動を開始。
10 月 30 日	益城町総合体育館閉鎖に伴い災害鍼灸活動を終了。



熊本鍼灸師チーム



避難者の方に対し針治療を行う鍼灸師

■ 派遣者数 合計 115 人（延べ 127 人）

医師：	16 人	看護師：	34 人
薬剤師：	5 人	介護福祉士：	26 人
理学療法士：	4 人	鍼灸師：	29 人
調整員：	13 人		

・現地雇用鍼灸師 7 人

■ 鍼治療利用者数 合計 1,841 人（延べ人数）

広安小学校（4/25～8/11）	1,617 人
テント村（5/2～5/25）	64 人
さくら樹（5/14～7/7）	53 人
総合体育館（9/4～10/30）	107 人

■ 受診者数 合計 1,068 人（延べ人数）

広安小学校（4/16～5/14）	979 人
テント村（4/27～5/31）	89 人

鳥取地震緊急支援活動

10 月 21 日午後 2 時 7 分、鳥取県中部を震源とする震度 6 弱（マグニチュード 6・6）の地震が発生。余震が続く中、避難している住民のストレスによる体調不良が心配される状況でした。

そこで AMDA は適切な支援を見極めるため、10 月 24 日、鳥取地震で被害の大きかった倉吉市を中心に看護師 2 人、調整員 1 人を派遣しました。

AMDA チームは避難所で情報収集を行う中で、市役所の方から要望のあった、緊急性はないが体の不調の訴えのある高齢者 2 人と子どもへの健康相談に応じました。倉吉市内の被害状況を確認した後、市役所職員の方に同行させていただき、戸別訪問を行いました。市社会福祉協議会が立ち上げたボランティアセンターの利用を勧めるチラシを配布するとともに、自宅駐車場で車中泊の可能性のある方に聞き取りを行うなど 26 日まで 3 日間、精力的に活動しました。

■ 派遣者

山河 城春：看護師 /AMDA ER ネットワーク登録メンバー、橋本 千明：看護師 /AMDA 本部職員、大西 彰：調整員 /AMDA 本部職員



戸別訪問を行う AMDA 看護師ら

東日本大震災復興支援活動

第13回復興グルメF-1大会開催



たくさんの方で賑わったF-1大会

東日本大震災の被災地の商店街や高校生らが丹精を込めた料理をふるまい、来場者が投票しナンバー1を決める「第13回復興グルメF-1大会」（同実行委員会主催、AMDA協賛）が10月9日、宮城県石巻市で開かれました。

出品された料理は、地元の特産品を材料に創作した「タコ味噌担々麺」や「夢の海鮮パエリア」など15品目。チケット売場（1枚300円）には午前10時40分の売り出しと同時に、約100人の行列ができる盛況ぶり。販売開始から1時間半足らずで「完売」の張り紙を出すブースもありました。ステージではダンスや和太鼓、バンドなどが次々と催され、フィナーレは宮城県沿岸部の被災地の中学・高校生で結成したアイドルグループが「復興支援ソング」を熱唱、会場から大きな手拍子が起こりました。各地の復興イメージキャラクターも勢揃いし、子どもたちも大喜びでした。優勝チームは福島県から参加した小高商業高校で、料理は「野馬追田楽」でした。

岡山からもボランティアバスを運行しました！

今回も高校生や大学生、社会人の方まで様々な年代の方がボランティアとしてご参加くださいました。

バスの中では、「今回なぜ参加したのか」、一人ひとりの真剣な想いを聞くことができました。そこには、震災から5年半を経過してなお東日本の復興に思いを寄せ、何度もこの支援活動と一緒に応援し続けてくださる方、そして新たに東北で何かを感じ考えたいと思われている方の姿がありました。

8日（大会前日）は一日中雨でしたが、震災で被害を受けた牡鹿半島周辺部や石巻市内の様子を見て回りました。建設が進む防潮堤。動きまわる工事車両。それらとは対照的なかつての居住区。道路だけが残る街並みのあと。震災時の様子や、観光協会の斎藤さんが船で津波を乗り越えたお話などに、ボランティアの皆さんは真剣に聞き入っていました。



岡山からのボランティアさんも大活躍でした

大会当日は、テーブルやイスの配置作業や、各自担当のブースに入りました。お客さん方がグルメを買う列にスムーズに並べるようお声がけをするなど、ボランティアの皆さま大活躍でした。

次回、第14回復興グルメF-1大会は来年3月から4月に開催予定です。

「復興へ新たな知恵を結集」

復興グルメF-1大会
運営事務局代表 坂本 正人
(AMDA 参与)



大会は優れた食文化で自慢の郷土の復興をめざし、被災地同士で地域間交流が出来ないかと考えたのがきっかけです。AMDAの方の仲立ちで岩手県大槌町のキラリ商店街と姉妹提携を結び、開催にこぎつけました。

最初の大会の参加はわずか4団体でしたが、その後、参加が増え、高校生も加入するなど裾野が広がっているのは嬉しい限りです。

大会開催を通してお互いが交流し、各地の復興の状況の共有もでき、支え合うことで頑張ろうという気持ちがわいてくる一方で、課題もあります。

出店する店舗は商品パッケージのデザインなど商品開発に難しさを感じています。大会はアンテナショップ的なPRの場ですが、なかなか利益に結びつかないのも悩みのひとつです。

日頃の仕事をしながらの参加で準備も大変ですが、商店街が仮設から本設になっても続けていくつもりです。復興に向けて新たな知恵を結集し、全国に誇れる地元特産品が生まれることを期待しています。

◆感想 40代女性

5年経っても地域によっては復興が進んでいるところもあれば、今回の牡鹿半島のようにまだ復興半ばの現状を目にして、自分の目で見たことを伝えるのも役目だと思いました。

AMDA 大槌健康サポートセンター開所から丸5年がたちました

センター長である佐々木賀奈子鍼灸師は、被災後流出人口の多い大槌町で鍼灸治療に加えて、地元の方々を集め瓢箪ランプづくりなどを通じて、コミュニティ活動にも尽力しています。

先日、東北に台風が上陸した際にも避難所に行けない高齢の方が大槌健康サポートセンターに身を寄せ合っていました。また、AMDA 大槌健康サポートセンターから、被害を受けた農家の方などに対してマスクや掃除道具などを提供しました。大槌町に残っている者同士がつながり合うことも、復興に向けての大切な一歩であると思っています。

月別鍼灸治療患者数

6月	89人
7月	98人
8月	95人
9月	86人
10月	78人

南海トラフ災害への備え 迅速な緊急医療支援策を探る

甚大な被害が想定される「南海トラフ災害」。AMDA では発災時における迅速な緊急支援活動を行うため準備を進めています。自治体や医療機関との連携協定の締結や緊急医療支援チームの輸送訓練などを行っています。

9 月 1 日には徳島県海陽町で行われた同県主催の防災訓練の中で、医療チームの輸送訓練と治療の優先順位を決める「トリアージ」や負傷者搬送の手順の確認を行いました。

支援予定先は徳島県の 3 市 3 町と高知県の 2 市 1 町に開設される計 10 か所の避難所です。各避難所には医師、看護師らで構成されるチームを 1 か月間派遣する予定です。

台湾や韓国、シンガポールなど海外支援ネットワークの構築も進めています。

想定外の事態も含め、予想される諸課題の把握と万全の態勢を整え、迅速な緊急医療支援活動の展開を目指します。皆さまのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



海陽町での衛星携帯電話通信訓練の様子

AMDA 中学高校生会の活動からみる 平和構築プログラム

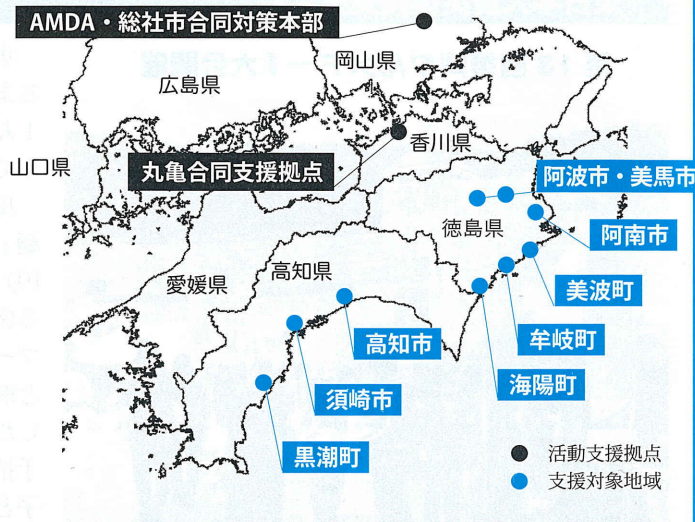
スリランカ紛争後復興支援活動報告会 12 月 18 日（日）開催

*

AMDA はスリランカで停戦合意がなされた翌年の 2003 年から 2006 年の間、対立する民族に医療を通じて平和に寄与する「医療と平和」プロジェクトを実施しました。2003 年に AMDA 中学高校生会のメンバーがスリランカを初めて訪れて以来今夏まで断続的に交流プログラムを実施、各民族グループの同世代と交流し平和構築活動を行っています。報告会ではスリランカの歩みや現状、活動の様子、高校生らの思いを紹介します。入場無料です。

【日時】12 月 18 日（日）13：30～16：00

【場所】岡山国際交流センター 2 階 国際会議場



徳島県海陽町

前田恵町長からのメッセージ

守りたい「安全安心の原点」



「防災の日」の 9 月 1 日、徳島県内の全域で行われた総合防災訓練は、自治体や防災関係機関、多数の住民が参加し、実践的で効果的な素晴らしいものでした。

過去の震災や大雨被害を振り返ると、自然に対する認識の甘さ、人間の無力さ、家族や地域の絆の大切さ、弱者に対する思いやりの心の大切さを痛感します。

当たり前のものが当たり前にあることこそが「安全安心の原点」と痛感します。

今回の訓練内容を十分に精査して検証し、今後の訓練や防災にしっかりと活かしていかなければならないと、強く感じた一日でした。

編集後記

今年は大型地震が熊本、鳥取県で相次ぎ、南米のエクアドル共和国でも甚大な被害をもたらしました。カリブ海のハイチでは大型ハリケーンが上陸、地震の多発と異常気象を感じずにはいられない 1 年となりました。

容赦のない自然の猛威は、激しい怒りとともに深い悲しみ、絶望感をもたらします。

苦境の中で周囲から温かい励ましと支えを受け、ともに苦労を共有することで新たな尊敬と信頼の関係を築いてきたのは、人間のみが持つ知恵の賜物と言っても過言ではないと感じています。

今年も皆様には大変、お世話になりました。心より感謝します。今後ともよろしくお願いいたします。 今井康人

AMDA の活動は皆様からのご寄付で実施されています

認定 NPO 法人 AMDA へのご寄付は
税控除の対象になります。
ご寄付の際にプロジェクト別のご寄
付指定も可能です。



書き損じハガキ、未使用切手を集めております。通信費の節約に役立たせていただきますので、ぜひご協力をお願いいたします。



これまでの AMDA カードのほか、VISA・JCB などのクレジットカードでのご寄附も取扱いできるようになりました。また新たに PAYPAL 決済も導入しております。詳しくは WEB をご覧ください。

本年も温かいご支援ありがとうございました。